

令和6年度 第2回 長野市社会福祉審議会 会議録

日 時	令和6年7月18日(木) 午後2時15分～午後3時05分
会 場	ふれあい福祉センター 5階ホール
出 席 者	委員30名 参加者22名うちオンライン(Zoom)参加者3名 (欠席者8名) 事務局17名 報道関係者3社 傍聴者0名
次 第	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 諮問</p> <p>4 議事</p> <p>(1) 諮問事項</p> <p style="padding-left: 2em;">ア 手話言語条例の制定について</p> <p style="padding-left: 2em;">イ 加齢性難聴者の補聴器購入への補助について</p> <p>(2) 答申事項</p> <p style="padding-left: 2em;">ア 子どもの福祉医療制度の拡充について (6福政第56号 令和6年4月24日諮問)</p> <p style="padding-left: 2em;">イ 重度心身障害福祉年金の支給のあり方について (5福政第1259号 令和6年2月1日諮問)</p> <p>5 その他</p> <p>6 閉会</p>
議 事	<p>4 議事</p> <p>(1) 諮問事項</p> <p style="padding-left: 2em;">ア 手話言語条例の制定について 事務局から資料No1に基づき説明があり、障害者福祉専門分科会へ付託された。 【質疑応答】なし</p> <p style="padding-left: 2em;">イ 加齢性難聴者の補聴器購入への補助について 事務局から資料No2に基づき説明があり、老人福祉専門分科会へ付託された。 【質疑応答】 <委員> 介護福祉士の立場で、耳に対する皆さんの意識がかなり低いと思っている。</p>

介護施設利用者に、耳が聞こえづらく、耳の状態が悪いと感じた場合、受診してはどうか問いかけを行っているが、他の病気だとすぐ受診するが耳鼻科は軽視されがちである。耳の聞こえづらさと認知症とのつながりは、とても大きいと思っている。

補聴器を使用している人でも耳鼻科を受診していない人が多いので、がん検診のように対象年齢になると定期的に無料のクーポン券が届く検診制度ができれば受診につながると思っている。今回の補聴器の購入補助は是非進めてほしい。

<事務局>

今後、老人福祉専門分科会で審議していただきながら方向性を定めていきたいと思っている。

<委員>

家族や周囲の声が聞こえていないのか、言葉が理解できていないのが高齢になるとわかりにくくなる。認知症と耳鼻科と並行して受診できるようになればよいと思っている。

<委員>

資料P5の加齢性難聴者の状況について、シニア一般調査に基づいて難聴の中軽度の方を特定しているということだと理解した。なぜこの調査を引用したのか。

エビデンスがないことを指摘しているのにもかかわらず、生活にどのような支障が生じているか、なぜマルチアンサーではなく、シングルアンサーなのか。円グラフに示すこと自体がおかしく、合わせてこの回答者が経済的な困難者で補聴器補助があることが社会にとって有益であるならわかるが、この資料だけでは十分な情報がないと感じる。

<事務局>

経済的な弱者を対処とした調査ではなく、全体的な傾向がわかる程度の調査である。耳が聞こえない高齢者が非常に多くなってきている事実をこちらのアンケートでも確認がとれると思っている。

<委員>

把握が目的であれば、「相手の声が聞こえにくく、人と会うことを避けている」回答者の中には、「相手の声が聞き取りにくく、仕事やサークルへ行きづ

	<p>らい人」も「電話口の声やインターホン、テレビの音が聞こえにくい人」もそれぞれいるはずである。エビデンスのあるデータを資料とすべきではないか。</p> <p><事務局> 令和5年1月に調査した結果であるが、そこまで考えて調査していなかったのは事実である。</p> <p>(2) 答申事項</p> <p>ア 子どもの福祉医療制度の拡充について (6 福政第 56 号 令和 6 年 4 月 24 日諮問)</p> <p>児童福祉専門分科会会長から資料 No 3 のとおり審議結果について報告があった。 【質疑応答】なし</p> <p>イ 重度心身障害児福祉年金の支給のあり方について (5 福政第 1259 号 令和 6 年 2 月 1 日諮問)</p> <p>障害者福祉専門分科会会長から資料 No 4 のとおり審議結果について報告があった。 【質疑応答】なし</p>
5	その他
	6 閉会